

青木昌彦先生追悼シンポジウム

「移りゆく30年：比較制度分析からみた日本の針路」

プレゼンテーション資料



鈴木 興太郎

早稲田大学名誉教授・荣誉フェロー
一橋大学名誉教授
日本学士院会員

2015年10月6日

青木昌彦教授の人と業績

*From Decentralized Planning Procedure through
Theory of Firms to Comparative Economic Systems*

鈴木興太郎

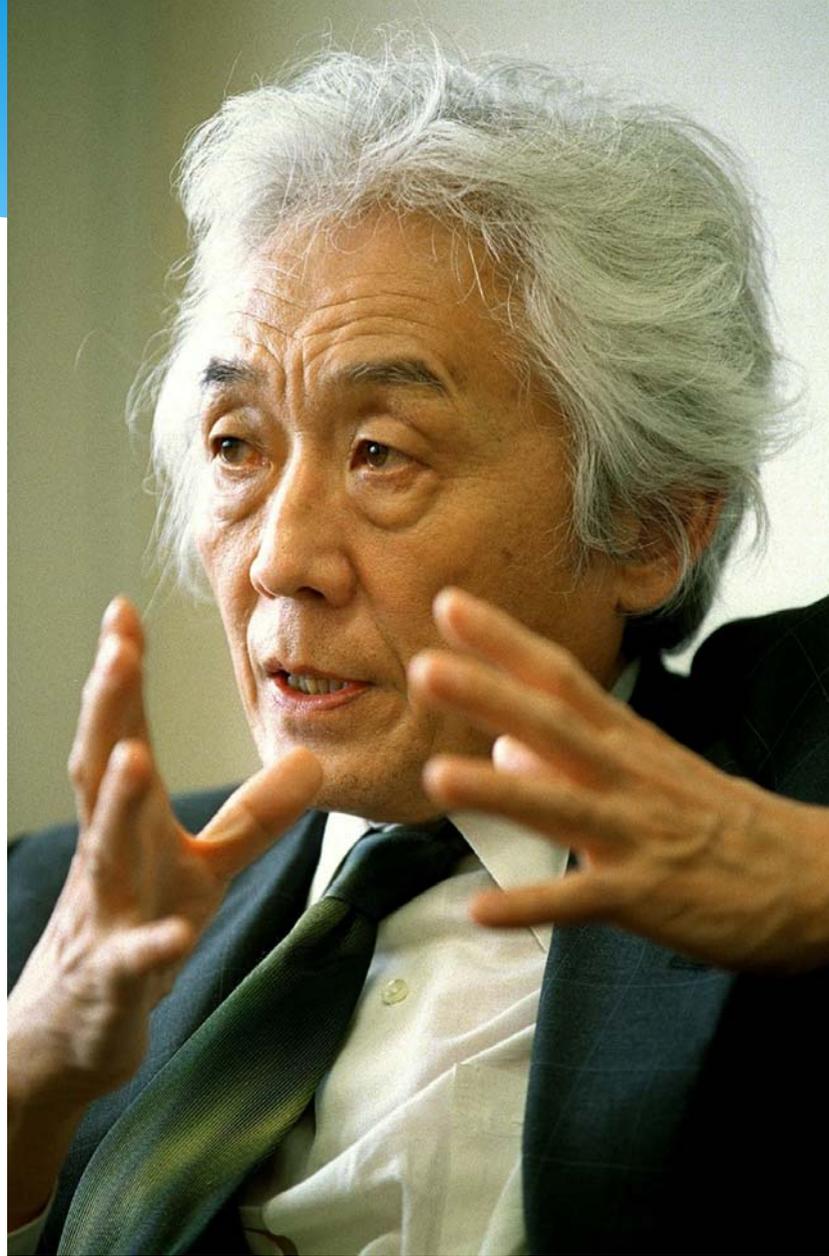
一橋大学名誉教授

早稲田大学名誉教授・栄誉フェロー

日本学士院会員

青木昌彦先生追悼シンポジウム

October 6, 2015



Brief Life Profile of Masahiko Aoki (April 1, 1938 – July 15, 2015)

Ph. D in Economics, University of Minnesota (1967)

Nikkei Prize for Economic Books of the Year (1971)

Associate Professor and Professor, Kyoto Institute of Economic
Research, Kyoto University (1969-1991)

Fellow of the Econometric Society (1982)

Henri and Tomoye Takahashi Professor in Economics, Stanford
University (1984-2005)

Japan Academy Prize (1990)

President of the Japanese Economic Association (1995-1996)

Professor Emeritus, Kyoto University (2001)

Professor Emeritus, Stanford University (2005)

President of the International Economic Association (2008-2011)

青木昌彦「私の履歴書」『日本経済新聞』2007年10月。

社会問題や国際的なかわりへの関心。ベンチャー精神。コミットメント →
引きこもり → リセットの「懲りない繰り返し」。

比較制度分析: 経済や政治の制度、社会規範や文化などが一体となった
制度様式が、なぜ形として多様なのか、その底流にある普遍的な原理は
なにか、を考える研究分野。青木教授の経済学の到達点。

共産主義者同盟(ブント)の創設メンバー、全学連の情報宣伝部長=姫岡
怜治から「戦線逃亡」。マルクス主義から近代経済学の研究へ転進。

アロー、ハーヴェッツの論文『資源配分における計算と分権化』から啓示を
得て、ミネソタ大学でハーヴェッツ、チップマンの指導のもとに博士論文を
作成。外部性がある場合の tax-subsidy scheme を設計。

スタンフォード大学に赴任。アロー、コルナイとの親交の出発点。

Major Work by Masahiko Aoki

A. Decentralized Planning Procedure in Non-Classical Economic Environment

- [1] 『組織と計画の経済理論』岩波書店、1971年。日経賞。
- [2] “Two Planning Processes for an Economy with Production Externalities,” *International Economic Review*, Vol. 12, 1971.
- [3] “An Investment Planning Process for an Economy with Increasing Returns,” *Review of Economic Studies*, Vol. 38, 1971.
- [4] “Marshallian External Economies and Optimal Tax-Subsidy Structure,” *Econometrica*, Vol. 39, 1971.

Kenneth Arrow と Leonid Hurwicz は、価格メカニズムが資源配分の効率性・情報利用の効率性・誘因整合性の3条件を満たすことを証明して、計画経済における合理的な経済計算の可能性に関する論争に、一定の結着。だが、この成果は経済環境に外部性と規模の経済性(非凸性)が存在しない古典的環境を前提。青木氏は、非古典的環境で配分効率性と情報効率性をもつ数量メカニズムを設計することに成功。この先駆者的な貢献は、ハーヴェイツが制度設計理論の嚆矢を放った講演(AEA, 1973. Richard Ely Lecture)で高評価。また、組織内の数量メカニズムとして、情報の分割的処理をヒエラルキー的に統合する類型、システムの組成単位間の情報共有に基づいて統合する類型の比較など、複雑なシステムをインターフェイス・ルールで結合することの意義を分析して、組織内の情報処理の諸類型に先駆的な貢献。

Major Work by Masahiko Aoki

B. Theory of Firms

- [5] “A Model of the Firm as a Stockholder-Employee Cooperative Game,” *American Economic Review*, Vol. 70, 1980.
- [6] “Equilibrium Growth of the Hierarchical Firm: Shareholder-Employee Cooperative Game,” *American Economic Review*, Vol. 72, 1982.
- [7] *The Cooperative Game Theory of the Firm*, Oxford University Press, 1984.
- [8] “Horizontal vs. Vertical Information Structure of the Firm,” *American Economic Review*, Vol. 76, 1986.
- [9] *Information, Incentives, and Bargaining in the Japanese Economy*, Cambridge University Press, 1988. 日本学士院賞。
- [10] *Corporations in Evolving Diversity: Cognition, Governance, and Institutions*, Oxford University Press, 2010.

非古典的な経済環境で、価格メカニズムより有効性を示す数量メカニズムを制度化する一つの有力な仕組みは企業。青木氏はこの観点に基づいて、Ronald Coase の取引費用論を新展開。企業の従業員が、企業内の情報処理において重要な役割を果たすとすれば、企業は単に株主のものとはいき切れない。そこで氏は、企業を物的資本の所有者と人的資本の所有者の協調ゲームと捕捉「コーポレート・ガバナンス」の stakeholders 的な視点の理論的基礎。新古典派的な株主支配論や労働者経営企業は特殊ケース。多様なコーポレート・ガバナンスの比較論に先鞭。

コーポレート・ガバナンス論と比較情報メカニズム論を統合して、日本企業の「特殊性」を経済分析的に解釈。

オックスフォード大学クラレンドン招待講演で、近年の認知科学における孤立した個人をこえた知覚配分 (distributed cognition) という考え方、人的資本の「本質性 (Oliver Hart)」に関わる所有権理論、組織参加者間の競争性と共同性の両立性に関わる規範理論 (Shapley value) を援用して、コーポレーションの多様性にかかわる議論を展開。

Major Work by Masahiko Aoki

C. Comparative Institutional Analysis

- [11] *Toward a Comparative Institutional Analysis*, MIT Press, 1992.
- [12] “Towards a Comparative Institutional Analysis: Motivations and Some Tentative Theorizing,” *Japanese Economic Review*, Vol. 47, 1996.
- [13] “Institutions as Cognitive Media between Strategic Interactions and Individual Beliefs,” *Journal of Economic Behavior and Organization*, Vol. 79, 2011.
- [14] “Contingent Governance of Teams: Analysis of Institutional Complementarity,” *International Economic Review*, Vol. 35, 1994.

ダグラス・ノースが代表する新制度学派の「ルールとしての制度論」に対して、青木氏は制度の本質は社会ゲームの均衡の要約表現にあるという代替的な見方を提出。均衡と予想を媒介する言語表現としての制度という考えは、均衡論とルール論という対立的考えを新たな次元で統合するという理解が、制度論では誕生しつつある。均衡概念を含んだ制度論の優れた点は、ゲーム理論の戦略的補完性の分析を通じて、企業組織、金融制度、政治制度、社会的規範などの諸制度の間の補完性に厳密な論証のツールを提供できること。この「制度的補完性」という概念は、最近の社会学や政治学における「資本主義の多様性論 (Varieties of Capitalism)」、哲学におけるヘーゲル再評価論にも、学際的な影響を及ぼしている。文献計測学の最近の研究には青木氏の分析がその概念と分析的基礎の提示における先駆者と評価するものがある。

Major Work by Masahiko Aoki

D. Comparative Institutional Development in East Asian Economies

[15] “The Five Phases of Economic Development and Institutional Evolution in China, Japan and Korea,” Presidential Address at the 16th World Congress of the International Economic Association (2011). Printed in M. Aoki, T. Kuran and G. Roland, eds., *Institutions and Comparative Economic Development*, IEA Conference Volume No.150-I, Palgrave Macmillan 2012.

青木氏は、世界銀行などのプロジェクト・リーダーとして、銀行・企業制度、政治経済制度、社会・経済規範、コーポレート・ガバナンスを巡る国際プロジェクトを組織。参加者は17カ国、150人。これらの論文の過半は中国語に翻訳されて、中国の経済制度の改革にも影響（呉敬連『現代中国経済の改革』NTT出版、2007を参照）。

Some Personal Recollections

青木氏の最初の著作『組織と計画の経済理論』を理論・計量経済学会の機関誌 *The Economic Studies Quarterly* に書評したことが機縁となり、京都大学経済研究所に移籍□最初の出勤日に、機動隊と全学連の激闘の渦中で京大正門が焼失□青木氏の韋駄天走りの迫力。

LSE で研究と講義に携わっていた 1970 年代後半□ロンドンを訪れた青木氏と森嶋通夫教授の自宅を訪問□森嶋、青木の両氏の経済学観の違いを学び、両者の優るとも劣らぬタイガース熱を目撃。

英国から帰国した 1978 年から、一橋大学経済研究所に移籍して冬の時代に沈むまでの数年間は青木氏の経済学が大きく変貌して、分析の射程の拡張と分析道具の刷新を達成した時期□青木氏と私の交流の第一期黄金時代。

青木氏がスタンフォード大学で華々しい活躍を開始した頃、阪神タイガースが球団史上で最善の年を満喫□バース、掛布、岡田がバック・スクリーンへ三連発□西武ライオンズを撃破して日本一□全スポーツ紙、エア・メールでスタンフォードへ。

虎のユニフォームのダルマ軍団が整列する京都のバー、京大経研の近傍の居酒屋・梁山泊、祇園の割烹・梅鉢。研究室を離れた交流と討論で発酵した新たな研究のシーズ。

2015年3月、ケネス・アロー、青木昌彦、雨宮 健の諸教授と会うため、久しぶりにスタンフォード大学を訪問。躰きの多い研究者人生を綴った『厚生と権利の狭間』(ミネルヴァ書房)を上梓して、研究成果の精粹を主要論文集 *Choice, Preferences, and Procedures: A Rational Choice Theoretic Approach* (Harvard University Press) に纏めた私に青木氏は最善の理解と最大の賛辞を贈られるとともに、自らの雄大な研究計画も熱っぽく語られて、京大経研で共有できた時代の興奮をまざまざと蘇らせてくれた。

彼と最後の晚餐を囲んだ翌日に出発した中国で、深刻な病を得た青木氏は、帰国後にスタンフォード大学で最高の手術と懇切な治療を受けた甲斐もなく、静かに永眠された。享年 77 歳の堂々たる研究者人生だった。

青木氏の知的遺産の継承を誓って、ご冥福をお祈りしたい。

To the Lasting Memory of Masahiko Aoki

Cleverness, Agility, and Flamboyance.

Cool Head and Warm Heart (Alfred Marshall).

Perseverance and Lasting Aspiration.

Masahiko Aoki's legacy, not only of his academic aspiration and accomplishment, but also of his strong support and warm encouragement generously given to younger generations will retain their lasting importance for many years to come.

May his soul rest in peace.